

# 久留米シティプラザからのお願い

ご来場のみなさまに気持ちよくご鑑賞いただけるようご理解ご協力をお願いいたします

## 客席内ではお控えください



**飲食は禁止です**  
※体調維持のための水分補給を除く



**撮影・録音は禁止です**



**携帯電話などの電源は必ずOFFに**

## 公演中は、音や光の出る行為にご注意ください

小さな音や光でも、暗く静かな劇場内ではとても目立ってしまいます



**話し声**

悪気はなくても出てしまう音もあります。咳をする時はハンカチで押さえるなど、音の軽減にご協力ください。



**紙や袋、カバンなどをさわる音**



**電子機器の音や光**

スマートウォッチの操作もお控えください。

## 正しい着席にご協力ください



**背もたれに背中をつけて**

前のめりや前かがみの姿勢になったり、椅子に浅く座ると、後列からは舞台が見えにくくなりますのでお控えください。



**帽子や髪型に気をつけて**

帽子をかぶっていたり、盛り髪やお団子などの髪型、大きな髪飾りは、後列の人の視界を妨げる場合がありますのでご注意ください。



**座席の移動は控えて**

緊急の場合を除き、公演中の座席の移動や退出はご遠慮ください。

久留米シティプラザ  
ピアノシリーズ  
VOL.2

# 務川 慧悟

むかわ  
けいご

ピアノコンサート  
「癒しと救い」



# KEIGO MUKAWA

2024 12.14 土 開演 14:30  
上演時間 約2時間(休憩含む)

久留米シティプラザ ザ・グランドホール

主催:久留米シティプラザ(久留米市) 共催:FM FUKUOKA





楽器の音色がクリアに聴こえる優れた音響のザ・グランドホールで、美しく情緒豊かなピアノの響きをお楽しみいただくためにスタートした“ピアノシリーズ”の第2弾。名だたる国際コンクールで上位入賞し、近年ではテレビやラジオでも活躍する今注目の若手ピアニスト、務川慧悟の演奏をお届けします。ピアノの音色が持つ「癒しと救い」をテーマに久留米のために特別に厳選した正統派クラシックの楽曲をお楽しみください。

## プログラム

### J.S.バッハ

Johann Sebastian Bach

### パルティータ第1番 変ロ長調 BWV 825

Partita No.1 in B-Flat major BWV 825

### ショパン

Fryderyk Chopin

### ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」Op.53

Polonaise No.6 in A-Flat major Op.53 "Heroic"

### ショパン

Fryderyk Chopin

### ポロネーズ第7番 変イ長調「幻想」Op.61

Polonaise No.7 in A-Flat major Op.61 "Polonaise-fantaisie"

－休憩20分－

### シューベルト(リスト編曲)

Franz Schubert (Franz Liszt)

### アヴェ・マリア

Ave Maria

### リスト

Franz Liszt

### ラ・カンパネラ

La campanella

### リスト

Franz Liszt

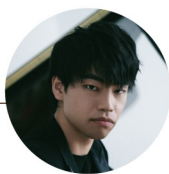
### ピアノ・ソナタ ロ短調 S.178

Piano Sonata in B minor S178

## PROFILE

### 務川 慧悟

KEIGO MUKAWA



©Yuji Ueno

2021年世界三大コンクールの一つである、エリザベート王妃国際音楽コンクールにて第3位受賞。2019年にはフランスで最も権威のある、ロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールにて第2位受賞。

長い歴史と伝統のある2つの国際コンクールの上位入賞で大きな注目を集め、現在、日本、ヨーロッパを拠点にソロ、室内楽と幅広く演奏活動を行っている。バロックから現代曲までレパートリーは幅広く、各時代、作曲家それぞれの様式美が追究された演奏、多彩な音色には定評がある。また現代ピアノのみならず、古楽器であるフォルテピアノでの奏法の研究にも取り組んでいる。フランス留学後研究を深めている作曲家の一人である、モーリス・ラヴェルの作品を取り上げた「ラヴェル

のピアノ作品全曲演奏」をテーマにした全6回のリサイタルを2017年シャネル・ピグマリオン・デイズにおいて開催。2022年はラヴェル全集をリリース。リリース記念の浜離宮朝日ホールでの4日間にわたるリサイタルは全て完売でコンサートを終える。リサイタルは毎年行っており、2023年は浜離宮朝日ホールで5日間の連続演奏会を行い22年に引き続き好評を得ている。東京藝術大学を経て、2014年パリ国立高等音楽院に審査員満場一致の首席で合格し渡仏。ピアノ科第3課程を修了、室内楽科第1課程修了。現在は国内外での演奏活動の傍ら、フォルテピアノ科に在籍し研鑽を積んでいる。2022年、NOVA Recordより「ラヴェル：ピアノ作品全集」をリリース。また、自身の編曲によるラヴェル『マ・メール・ロワ』ピアノソロ版の譜面をMuse Pressより出版している。2024年、第33回出光音楽賞受賞。

## プログラムノート

### バッハ

#### パルティータ第1番 変ロ長調 BWV 825

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)は、18世紀前半のドイツで活躍した作曲家でバロック音楽の大家として知られています。宮廷や教会で音楽家として働き、数多くの宗教曲や器楽曲を生み出しました。

バッハは、ドイツで「組曲(Suite)」を意味するパルティータを第1番から第6番まで作曲、4つの舞曲(アルマンド、クーラント、サラバンド、ジーク)に、カプリッチョ、アリア、ブルレス、スケルツォ等の舞曲以外を組み入れています。第1番は、鍵盤楽器のためのパルティータの中でも特に有名で、上品で美しく明るい曲想によって最も親しまれています。構成曲は次のとおり。

- I.プレリュード II.アルマンド III.クーラント
- IV.サラバンド V.2つのメヌエット VI.ジーク

### ショパン

#### ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」Op.53

#### ポロネーズ第7番 変イ長調「幻想」Op.61

フレデリック・ショパン(1810-1849)は、バッハ等のバロック、モーツァルト等の古典派に続くロマン派音楽を代表するポーランド出身の作曲家・ピアニストです。幼い頃から音楽の才能を示し、渡仏後は同時代の作曲家や文学者と交流しながら独自の感性と技巧が光る音楽スタイルを確立しました。特に、エチュードやノクターン、マズルカ、バラードなど、さまざまなジャンルのピアノ作品を数多く残しています。

ショパンはポーランドの舞曲である“ポロネーズ”を多く作曲、第6番は特に有名で「英雄ポロネーズ」と呼ばれます。当時、ロシア帝国の支配下にあった故郷ポーランドを強く思っていたことから、「英雄ポロネーズ」は祖国の独立と民族精神の象徴として捉えられることが多く、力強く熱情的なメロディが特徴的です。

第7番は、ポロネーズのリズムが散見されるも、ショパンは当初タイトルを「幻想」としており幻想曲として作曲しました。即興的な自由さと美しくも夢幻的な雰囲気を合わせ持ち、友人の作曲家リストは「芸術を通り越して、あまりに感傷的すぎる。」と評しています。

### シューベルト(リスト編曲) アヴェ・マリア

フランツ・シューベルト(1797-1828)、ロマン派初期を代表するオーストリアの作曲家で、管弦楽曲、室内楽、ピアノ曲等に多くの作品を残し、特に歌曲(リート)では卓越した才能を発揮、600曲以上を作曲し「歌曲の王」と呼ばれるようになりました。フランツ・リスト(1811-1886)は、同じくロマン派でハンガリーの作曲家・ピアニスト。超人的な演奏テクニックで「ピアノの魔術師」と呼ばれ、当時の人々を驚かせました。

当時はピアノが楽器として発展していく中で、聴く機会の少ない管弦楽や歌劇、歌曲をピアノ用に編曲して演奏し楽しんでいました。編曲の才能があったリストは、師を同じくする兄弟子シューベルトの音楽に親しみ、多くの歌曲を編曲しています。グノーやカッチーニと並び“三大アヴェ・マリア”として知られるシューベルトの「アヴェ・マリア」も、ピアノ演奏のために編曲された歌曲の1つで、超絶技巧的なリストの特徴がありながらも、シューベルトの原曲の雰囲気を残した美しい曲です。

### リスト ラ・カンパネラ

イタリア語で「鐘」を意味する“カンパネラ”。リストが超絶技巧を目指すきっかけとなったニコロ・パガニーニによって名付けられました。リストはそのタイトルを強く意識したのか、曲中に繰り返し「鐘」を表す音が登場します。メロディ部分は、パガニーニの「ヴァイオリン協奏曲第2番第3楽章」のロンド『ラ・カンパネラ』の主題を用いており、リストがピアノ作品として作曲した「パガニーニによる大練習曲」の第3曲にあたります。

### リスト ピアノ・ソナタ ロ短調 S.178

ピアノのために多くの作品を残したリストでしたが、「ソナタ」と題した作品は、この「ロ短調」だけでした。切れ目なく約30分間演奏される長大な単一楽章の作品で、大変華麗でロマンティックなリストらしい技巧が展開されます。曲は大きく3つの部分に分けられ、1部は静かに始まり怪しい雰囲気の主題が何度となく形を変えながら登場、急激に激しく両手でオクターブが技巧的に奏でられます。中間の部分は穏やかに進むも、苦しみを表すような曲想が長く続いたあと、3部に入ると主題が小フーガの形で重なり出て気分はさらに高揚し、目も眩む超絶技巧が展開されながら、最後は穏やかに静かに曲を閉じます。